

特定非営利活動法人

バングラデシュと手をつなぐ会

ミロン

No.104



「ミロン」は、一つになる、手をつなぐ という意味のベンガル語です。

バングラデシュと手をつなぐ会ホームページ : <http://bangla.nngo.jp>

■ アジアの子どもたちの未来のために ■

バングラデシュと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディで現地の村人による開発のための委員会「ションダニ・シオンスタ」と協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

教育の分野では ……

将来を担う子どもたちの教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、教科書の貸出】

医療の分野では ……………

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



国内活動では ……………

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

あなたの目で Bangladesh を見てみませんか？

10月2日(日)現地訪問報告会に続いて、10月31日(日)のバザーも、大盛況。地道な活動ですが、年に2回の定期的バザーが地元の方をはじめ、皆さん方に定着してきたのでしょう。ありがたいことです。

地球市民どんたくでも、手をつなぐ会のブースをはじめ各 NGO の展示に、多くの方々、特に若者が集まってくれました。ホワイトバンドをつけた若者たちも多く見かけます。不況の影響もあり、NGO 活動が一時ほど活発とはいえませんが、災害救援、開発支援、開発教育などそれぞれの分野で確実に裾野は広がっています。

パキスタンの大地震では、7万人の人々が亡くなったといわれます。昨年末からの スマトラ沖地震・大津波 の衝撃も覚めやらない時に、まるで地球が怒っているかのような、そんなできごとが続いています。日本でも各地で地震が続き、台風も大きな被害をもたらしました。アメリカのハリケーン被害は、はからずもアメリカ社会での貧富の差を浮き出させることにもなりました。そのアメリカは、いまだにイラクからの撤退の時期を見出すことができず、右往左往。米兵の死者も2000人を超えましたが、イラクの人々の死亡は、3万人とも10万人とも言われます。そしてこれは、自然災害ではなく、人が人を“殺した”数なのです。

さて、気を取り直して私たちの道を切り拓いていきましょう。12月23日から 冬のスタディツアー、参加者募集中です。冬の Bangladesh は、気候温暖、雨も降らず、さわやかな毎日です。自分も何かやってみたい、そんなあなたの参加をお待ちしています。

(二ノ坂 保喜)

ミロン 104 号目次

あいさつと目次	1
現地からの報告	2
子牛の奨学金について/カラムディの横顔	3-5
現地訪問報告会の報告	6
地球市民どんたくの報告	7
活動報告	8
会計報告	9
「 Bangladesh と手をつなぐ会」入会のご案内	10
これからの行事予定	11



現地からの報告

ラフマン モクレスール

季節外れ秋の洪水

バングラデシュでは暦の上の7月と8月が雨季というのが常識。しかし今年は例年と違って10月の半ばに洪水がやってきた。8月に雨が少なく、農民は田植えに大変困っていた。バングラデシュの国土はそれほど広くないが、地域によって天候や環境のばらつきが大きい。特に東西の差がはっきりとしている。今年の現地訪問の時、東方は洪水に見舞われ、西方にはあまり雨が降らなかった。人々は地下水を汲み上げ、農業に使っていた。今年はもう、洪水はないだろうと思った10月初め、嵐とともに大雨が降り、田畑は水浸しになってしまった。米の生産量はかなり落ちると聞いている。

ラマダン (断食のヶ月)

皆さんご存知のように、バングラデシュの85%の国民はイスラム教の信者である。10月初めから11月初めまで29日間、断食の月間を祝っている。この期間、朝4時ころにご飯を食べ、太陽が沈むまで何も口にしない。健康なすべての大人は断食をしなければならない。ただし妊婦や病人や旅人は断食をしなくても良い。11月4日が断食明け。この日は日本の正月に相当する。都会に住んでいる人はいっせいに田舎に帰り、一週間程、家族と過ごす。交通機関も大混雑。会社員はこの時期に特別手当(ボーナス)を支給される。奥さんたちはこの時期を待ちに待ったように買い物に突入?する。人によっては、夫の給料よりはるかに買い物してしまう人も少なくない。そのことが逆に夫の首を絞め、不正行為につながる。どこに行っても人があふれているので、この時期には事故も多く発生する。今年は何もないことを祈っている。

エクラムールからの感謝の手紙

ヘルス・コーディネーターのエクラムールはションダニの誕生以来、中心的な役割を果たしてきた。彼はさまざまな計画を立て、それを実現している。現在彼は、病院と地域住民とのパイプ役として、カラムディ村以外の地域12ヶ所で開いているサテライト・クリニックも担当している。毎日欠かさず、村に出て行き、クリニックのスタッフと住民とのセッティングをしたり、問題があればそれを解決したり、新たに計画を立てたり・・・活動地域が広がってきたので、自転車で全部回るのはとても不可能。彼の活動量を考慮し、ションダニと手をつなぐ会は50%ずつ資金を出しあい、この夏バイクを購入した。条件は、彼自身が月500タカずつションダニに返還すること。先日彼から感謝の手紙が届き、毎日の活動に大いに役だっているとのこと。会員の皆様にミロンを通して彼の気持ちをお届けしたい。

子牛プロジェクトの現状と将来性

方針

奨学金の代替プログラムとして2002年に始めた子牛プロジェクト。

村の小学校は無料だが、中学校は有料。入学金、月謝、教科書代やさまざまな名目でお金が必要になる。ションダニは、中・高・大学生を対象に奨学金を出してきた。今まで大勢の学生が中学校はもちろん、高校や大学を出て社会人になり、いろんな分野で働いている。経済的に恵まれない家庭の子どもに、教育支援することはとても素晴らしいことのように聞こえるが、裏返してみると、このことがその家族や本人の依存心を高める要因になっているのではないか。子どもの教育は第一に親の責務であり、社会の責任でもある。家族みんなで子どもを育てる、それは単にご飯を食べさせるだけではなく、教育も含むことであろう。そのために単に奨学金として現金を渡すのではなく、将来収入になるようなものを渡した方が良いのではないか、そう考えて4年前から小学校3年生を対象に子牛貸し出し制度をはじめた。

日本円で一頭約1万円で購入するメスの子牛を貸し出し、生徒を含む家族みんなでその牛を育てる。子どもが中学校に入るときには子牛は親牛になり、ミルクも出る。ミルクの幾らかは自分たちで消費し、残りを売る。売ったお金の中から月100タカずつションダニに貯金する。このように家族の収入も増えるし、ミルクを飲むことで栄養補給にもなる。これらの家族は今までにミルクを買って飲む余裕など、ほとんどなかっただろう。

子牛が親牛になり、第1頭目の子牛はションダニに返すことになっている。その後は、親牛も次から生まれてくる子牛もその家庭の財産になる。ションダニは返してもらった子牛をまた別の生徒に貸し出す。このように続いていく。

生徒をどのように選別するか

毎年1月に小学校を通して子どもやその親に口頭で奨学金子牛募集を知らせる。またションダニのスタッフも村を訪問する際、このことを知らせ、願書を受け付ける。子牛担当者アジズールは願書提出者の家を一軒一軒周り、細かい情報を集める。その中で特に注意することは、経済状況のほかに子牛を飼う意思があるか、子牛から得られるお金を子どもの教育費にあてるか、また牛小屋の用意ができるかなどである。ションダニの中で委員会を設け、これらの情報を元に、子どもや親の面接を行い、最終的に決める。

管理

アジズールは少なくとも週一回各家庭をまわり、牛の状況、家族の健康や子どもの教育などをチェックする。もし子どもが病気であれば、病院へ行くように勧める。また学校教育はどうなっているかを調べるのも重要である。彼は生徒一人一人の出席状況や成績についても学校から報告を受け、ションダニの運営委員に提出する。またこれらの情報は日本側にも送られてくる。

現状

子牛貸出制度が始まって4年目。毎年10頭ずつ購入してきた子牛は今年で40頭を数える。

1期目と2期目の子牛はすでに親牛になり、第1子の子牛をションダニに返している。ションダニはまたそれを別の生徒に配布している。表の3期目と4期目の+6と+5はその数を示している。

	頭数	第1子	第2子	第3子	子牛死亡	母牛死亡	貯金額
1期目	10	10	9	2	1	1	10,594
2期目	10	9	2				5400
3期目	10+6	2					930
4期目	10+5						
合計	51						16,924

10月現在、貸し出している牛の数は51頭である。農薬を飲んで1頭の親牛が死亡した。また生まれて数日経った子牛が親牛の体に下敷きになり死亡。そのほかに1期目の1頭の子牛は妊娠しなかったため、それを売って別の牛を購入した。このような事件はあったものの、他には大きな事故もなく、運営されてきた。

貯金額

牛が出すミルクの量は様々なので、貯金額もばらばらである。それぞれのペースに任せてある。ただし、できれば月100タカぐらい貯金して欲しいのがションダニの願い。1期目の牛を飼っている家庭には合計1,500タカを貯金している家族もいれば、700タカしか貯金していない家族もいる。面白いことに、1期目の子牛を飼っている生徒は今7年生になっている、すでに中学生である。もちろん学費も必要である。しかし誰も今までに貯金したお金を下ろしていない。生活費の中から苦しくても学費を出し、貯金額を増やしていく方針。今まで20名の方が貯金に加わり、16,924タカ貯金されている。

このプログラムの当初の計画は5年間である。来年は5年目を迎える。その後どうするか、今のまま継続するか、あるいは形を変えていくべきか、課題となっている。そろそろプログラムの評価段階に入り、ションダニとよく話し合い、次のステップに入った方が良くはないかと思う。

子牛購入資金提供者への感謝

このプロジェクトに日本の多くの個人や団体や学校が協力してくださっており、その成果が上述した表で現れている。皆さんの思いがこの報告で少しでも伝われば幸いです。現地の子どもやその親を代表してこの場を借りて感謝する次第です。ありがとうございます。

自立に向けたションダニの新たなプログラム

村人やションダニの自立を考え、昨年から食肉用牛の飼育を検討して来た。村の貧しい家庭にオス子牛を貸し出し、半年後その牛を売り、双方でその利子を分けるという方針。元金はションダニに返し、利子の60%は飼い主、40%はションダニがもらうという契約。

今年3月に22頭の牛を149,375タカで購入、8月から9月にかけて17頭売却。総利益は62,855タカ。予定通り、飼い主は37,713タカ、ションダニは25,142タカをもらった。このプロジェクトの将来性を考え、9月に新たに29頭の牛を購入した。村の中で資金が回り、村人が自分の手で収入を得ることはとても良いことである。またションダニも自立しなければならない。病院の支出は少しでもこのような収入からまかなえれば手をつなぐ会として安心する。

～カラムディの横顔～

カラムディ村をもっと身近に感じて欲しい！ションダニションスタの仲間達を皆さんにも紹介したい！そんなコーナー「カラムディの横顔」

栄えある第1回は、ラヘル・モンドルさんを皆さんにご紹介いたします！

ラヘルは、カラムディ村の母子保健センターに勤務する看護師である。カラムディに来て早や5年。病院に併設した宿舎に寝泊りし、看護師として朝に夕にたくさんの生命の誕生を見守ってきた。

幼い頃からキリスト教系の施設で育ってきた。そしてその看護学校で看護の知識と心を学び、この病院へとやってきた。そんな彼女がみんなに与えてくれるもの、それはにぎやかな雰囲気。細くて小さな体と対照的な大きな口は、早口に冗談を言い、けらけらと笑う。毎年日本から訪問団がやってくるが、恥ずかしそうにしながらも、片言の英語で話しかける。そしてまた、けらけらと笑う。一度なんか、訪問団と一緒に二人羽織をしたっけ。身振り手振りの説明を聞いて、分からないまま羽織を着せられ、お菓子を食べたり、紅茶を飲んだり。日本人に混じって楽しそうに参加してくれたっけ。



2005年9月19日、そんな彼女がお母さんになった！赤ちゃんの名前はRoudro(ルッドロ)元気な男の子だ。

これからは、看護師として、母として、彼女の笑顔は更に輝くことだろう。

2005 年現地訪問報告会&コンサートが開かれました！

10月2日(日)九州大学西新プラザにて、現地訪問報告会が開かれました。

当日はあいにく雨でしたが、50名近くの方が来ていただきました。

＊

第1部のコンサートでは、Shanaさんによるオカリナとギターの美しいハーモニー、そして二ノ坂夫妻のオカリナも加わって、楽しい演奏会となりました。日本の童謡から沖縄のうた、そしてアイルランドの曲など、目を閉じて聞いていると、その土地の風景が浮かんで来て、まるで旅をしているような気分になりました。秋にぴったりの、しっとりとした素敵なひとときでした。

＊

第2部の現地訪問報告会では、老若男女バラエティーに富んだ8人の訪問団員のうち7人が、スライドとビデオを使って報告をしました。(堀さん欠席) ラフマンさんと中島さん以外は初参加でしたが、各人が事前に決めていたテーマに沿って、現地での活動が行われました。それぞれの視点で村の様子をじっくり見つめ、村人たちと交流を深め、そこから感じたこと、気づいたこと、そして今後の課題、とたくさんものを持ち帰って来ました。「どこか懐かしい昔の日本のようだった」という感想を持たれた人あり、「言葉を勉強して、また必ず行きます」と宣言(!)された人あり、その報告内容も個性あふれるものでした。詳しくは、「2005年現地訪問報告書」をどうぞご覧になってください。

(小川 博子)

今年度の現地訪問報告書が出来ました！

1冊 500円(資料代・送料込)にてお分けしております。

ご希望の方は、 Bangladesh と手をつなぐ会事務所または、
にのさかクリニックまでご連絡ください。

Bangladesh と手をつなぐ会 TEL:092-844-1369

FAX:092-781-9658

にのさかクリニック TEL:092-872-1136



地球市民どんたく(大盛況)

10月15日(土)16日(日)の両日にわたり、ベイサイドプレイス博多埠頭において地球市民どんたくが開催されました。初日の朝は小雨がぱらつき不安がよぎったりもしましたが、それも束の間、その後は空高い秋晴れに恵まれ、海に面した開放的な会場での爽やか且つ賑やかなイベントとなりました。

Bangladesh と手をつなぐ会も例年に引き続き参加。

(第7回目となる今回まで皆勤賞です!) 15日には、国際協力セミナー「ほんの少しの勇氣から始めよう～自分発! 国際協力」へパネリストとして参加、16日には、多くの会員の方にご参加いただきながらブースでの展示や民芸品・食品(シンガラ)販売、ステージでの活動紹介・スタディツアー紹介など



↑青空ステージにて、会の紹介を行いました。

を活発に行うことができました。今年も、市民の皆さんにひろく会の活動を知ってもらい、また地元NGO同士の連携を深めるいい機会になったと思います。

最後に、個人的な感想になりますが——セミナーの際講師の中村尚司先生がおっしゃっていた“暴力や戦争に対抗するのは「人間的な関係を強める協力」だ”“国際(国と国との間)ではなく「民際」(人と人との間)で”というお話が印象的でした。“手をつなぐ会”会員の皆さんと、福岡で希望や志を持ち生活している方々と、カラムディ村でがんばっている人たちと、今後もつながりを深めながら共に歩んでいけたらと改めて感じました。

(湧上)

講演会活動に関するレポート ラフマン・モクレスール

子ども NPO センター主催の NPO 総合マネジメント講座

10月17日午前10:00から12:00まで福岡中央市民センターで子ども NPO センター主催の勉強会に行ってきた。20代後半から60代までの14名の参加者。さまざまな職歴をお持ちで、これからもそれぞれの好きな道を歩むことを考えている方々に対して、「NPO 総合マネジメント」というテーマを与えられ、どのように何を話そうかなと考えた。相手は大人であるが、NGO についてどれぐらい興味があるかわからないので、少し戸惑った。真っ先に「開発」や「発展」という用語についてどのようなイメージを持っているか問いかけた。その後、NGO の役割について話し、最後にバングラデシュと手をつなぐ会の活動について簡単に映像を見せながら説明した。1時間ほど話し、質疑応答に約40分。会場からさまざまな質問があったが、NGO についてというよりバングラデシュについての質問が集中した。NGO に興味を持つ人が出てくれればよいなと思っている。

福岡市立片江小学校で環境教育についての話

10月20日、片江小学校の6年生約100名を対象に環境教育について講演した。福岡県国際交流センターは県内の学生に世界のことを知り、異文化交流をし、海外の文化を体験するという目的で「教室から世界をのぞこう」というプログラムを数年前に開催した。私もそのプログラムから依頼され、いくつかの学校に行ったことがある。今回はバングラデシュ政府が2002年から取り組んでいるポリ袋使用の全面禁止について話した。最初に、ビニール袋の原料になるものは何か、またその原料は永遠に確保できるか、環境にどのような影響があるかなどについて話し、その後麻袋を見せて、そのメリットやデメリットについて話した。今年現地訪問の際とってきた麻の栽培から収穫までの映像(淵上さん撮影)を見せた。最後に昨年テレビで放映された番組を見せた。子ども達はかなり関心を持って聞いていたようだ。

久留米市のバザーに参加しました。 中島ともこ

ソロプチミスト久留米の主催するバザーに参加してきました。10月21日(金)民芸品や紅茶をラフマンさんの車に詰め込んで、西新事務所を出発したのは、朝の8時を少し回った時間でした。都市高速・高速と走って目的地の久留米市に着いたのは、予定の時間より少し早い、9時過ぎ。久留米市の中心地六ツ門にある井筒屋デパートが、バザーの開催場所です。

10時の開店と同時に、大きな袋を持ったお客様が続々とお見えになり、圧倒されそうなほどでしたが、紅茶、ダル、小物と少しずつ売れていき、12時終了時には、26,500円の売上となりました。ソロプチミスト久留米の会員の皆様には、活動の場所を提供していただいただけでなく、売上にも大きく協力していただいた事に、感謝しております。ありがとうございます。

会計報告 (平成17年10月30日現在)

募金者 (敬称略)

児玉哲夫 谷川ミツヨ shana (原健太郎・麻由子) 水山マサコ 早良更生園
山崎博敏 吉富正 小山田浩定 長沼和子 今給黎靖子 高尾礼子 佐伯邦男
吉川徹 今泉弘子 井上久美子 池本タエ子 へのさかクリニック募金箱

旅費カンパ者 (敬称略)

村里ヤヨイ 井原環 山下久代

産婦人科病棟建設&設備費募金者

川村久美子 松尾清美 林久美子

ご協力ありがとう
ございました。



10月30日・チャリティーバザー報告

秋晴れの午後12時半、野芥4丁目にはオカリナの清らかな音色が秋風によって響き始めました。shana (原健太郎&麻由子) さんのご協力での演奏を始めたのは2002年春のバザーからですが、毎回、地域のみなさんは楽しみにしてくださっています。今回は二ノ坂代表夫妻、この夏現地訪問に参加した堀さん、オカリナ教室の生徒さん、諫山さんも加わっての演奏でした。うっとり演奏を聴き、拍手が盛大に響き渡った後、バザー開始。

毎回ぜんざいや惣菜、お野菜、お花などを提供して下さる方々が定着し、炊き込みご飯、スポンジケーキ、たこ焼き、オイスカの野菜等が並び、バングラデシュの紅茶を大声でアピールするラフマンさんの姿も板についてきて、大賑わい。

年に2回のバザーは地域で定着してきました。今回の売り上げは目標額をはるかに超える **153,485円** になりました。感謝してご報告いたします。

前日の値段付けからバザー当日も多くのボランティアの方のパワーと笑顔と差し入れに支えられて、心地よい疲労感とともに終えることができました。

ありがとうございました!

次回は2006年3月25日(第4日曜日)の予定です。

皆さんの引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

■入会のご案内

会員募集中

Bangladesh と手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

Bangladesh と手をつなぐ会では、Bangladesh ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員

会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6,000円

賛助会員

会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1,000円年間12,000円

※ 何口でも結構です。

会費振込先	郵便振替口座	01720-2-10442
加入者名	Bangladesh と手をつなぐ会	

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

きりとりせん

■ Bangladesh と手をつなぐ会入会申込書 ■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名

男・女

生年月日

明・大・昭・平 年 月 日

才

職業

住所

電話・FAX

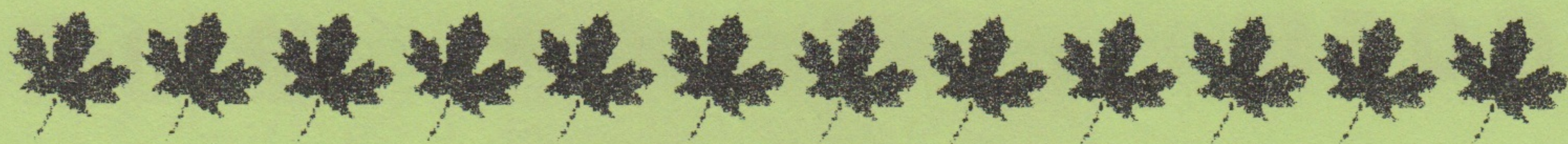
E-mail

@

会員 協力会員 として入会を申し込みます。

会費は 年 月分 から 年 月分までの

円を 直接 郵便振替で納めます



これからの行事予定

皆様のご参加をお待ちしています。

月 日	時 間	内 容	場 所
11月5日(土)	15:00~ 17:00	第1回 NGOカレッジ	天神ビル11F 〔参加費1,000円〕 学割あり
12日(土)	15:00~ 17:00	第2回 NGOカレッジ	福岡YWCA会館3F 〔参加費1,000円〕 学割あり
17日(木)	19:00~	運営委員会	西新事務所
19日(土)	15:00~ 17:00	第3回 NGOカレッジ	福岡YWCA会館3F 〔参加費1,000円〕 学割あり
23日(水・祝)	15:00~ 17:00	第4回 NGOカレッジ	天神ビル11F 〔参加費1,000円〕 学割あり
12月1日(木)	19:00~	事務局会議	西新事務所
16日(金)	19:30~	2005年活動 反省会	炉端焼き磯貝 (早良区藤崎)
12月23日 (金) ~30日(金)		スタディー ツアー	バン格拉デシュ カラムディ村
2006年 1月5日(木)	19:00~	事務局会議	西新事務所
19日(木)	19:00~	運営委員会	西新事務所
29日(日)		バン格拉デシュ 料理教室&スタ ディーツアー 報告会	あいれふ 8階 調理室 参加費1,000円要予約

変更になる場合もあります。事前にご確認のうえご参加ください。



特定非営利活動法人 Bangladesh と手をつなぐ会冬の行事

2005年



参加者募集

冬のスタディーツアー

とき：12月23日（金）～12月30日（日）

費用：19万円（会員は18万円）

事前研修あり

募集人員 10名

締め切り 11月20日

好奇心旺盛な子どもたち、力強く生きる村人たち、
おいしいカレーにトロピカルフルーツ、
そして、空からこぼれおちそうなほどの星たち…
太陽と豊かな緑の中で、
あなたはどんな耀きに出会いますか？



Bangladesh カレー de

冬を乗りきろうの会

Bangladesh 料理教室

◆ 日時：⁰⁶2005年 1月29日（日） 10:30～ 調理開始
12:30～ 試食／報告会

◆ 会場：あいれふ 調理室

◆ 会費：1000円（要予約）

ツアーや料理教室の申し込みは、
Bangladesh と手をつなぐ会

TEL: 092-844-1369

FAX: 092-781-9658

e-mail: bangla@npggo.jp

http://bangla.npggo.jp

